

茨城県图画工作・美術研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年度8月）

研究テーマ	表したいことを基に表し方を工夫する力を育てる絵画指導の在り方 一小2学年「ひみつのたまご」における用具の活用や技法選択活動を通して—
-------	---

笠間市立稻田小学校 教諭

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領解説图画工作編（平成29年7月 文部科学省）の第1学年及び第2学年の目標(1)に「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり、表したりすることができるようとする。」と示されている。さらに、「A表現」(2)イにおいて、「絵や立体、工作中に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。」とある。そして、その表したいことを基に表し方を工夫する指導に当たっては、「低学年の特性である手や全体の感覚などを十分に働かせ材料や用具と一緒に表現する実態を踏まえ、（中略）感じたことを生かしながら表すことや、用具を使うことから表現が広がるような指導を工夫することが重要である。思い付いたことがすぐにできるような材料や用具をあらかじめ用意しておくことも大切である。」と記されている。

第2学年2組の意識・実態調査（平成30年11月6日実施）によると、「作品をつくるとき、アイデアがよく思い描きますか。」という質問に対して「どちらともいえない」「思いつかない」と回答した児童は18人中9名であった。また、「思い描いたことを、絵や工作中に思い通りに表すことができますか。」に対し、「どちらともいえない」「できない」と回答した児童は、約4割であった。その理由を聞くと、「用具の使い方は分かるが上手に使えない」「用具が不足している」「時間が足りない」という意見が多くかった。これらのことから、表したいことを基に表し方を工夫して表現する力が十分に育っていないといえる。

そこで、教師側が児童が使用する用具を多数準備したり、様々な技法を生かした参考例を提示したりして、選択肢を多くすることで、自らの作品制作が創造性の高いものとなると考えた。背景を染める際には、たまごが生まれる世界を工夫して表現できるよう、場の設定を工夫する。ひもや緩衝材、ダンボールなど、いろいろなものを巻き付けたローラーやスポンジを用意しておき、児童が表したいことに合わせて自分で選択して使用できるようにする。また、アイデアを膨らませる手立てとして、実際の動物のたまごのように、たまごが成長し、割れ、中から何かが出てくるという順序を大切にしていく。たまごの柄を付ける際には、絵の具、ステンシル、タンポ、クレヨンなどのの中から、自分のイメージに合った技法を選択することにより表したいものに近づけられるようにしていく。

このように、技法選択活動をしたり用具をよりよく活用したりすることで、表したいことを基に表し方を工夫する力のある児童を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 ひみつのたまご

2 題材の目標

- ひみつのたまごから想像したことを絵に表すことを楽しもうとしている。(関心・意欲・態度)
- ひみつのたまごから生まれてくるものやお話を想像し、考えている。(発想や構想の能力)
- 表したいことに合わせてかき方や身近な材料の使い方を工夫している。(造形的な技能)
- 自分や友人のかいた絵を見て、想像したことを話し合い、作品の楽しさや面白さを味わっている。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

質問	集計結果
あなたは図工が好きですか。	好き：17名 普通：1名 嫌い：0名
作品をつくるとき、アイデアがよく思いつきますか。	思いつく：15名 思いつかない：3名
思いついたことを、絵や工作に思い通りに表すことができますか。	できる：13名 どちらとも言えない：3名 できない：2名
なぜできないのですか。	用具の使い方は分かるが上手く使えない：2名 時間が足りない：2名 図工が苦手：1名

本学級の児童（男子13名、女子5名 計18名）は、図工の時間を楽しみにしている児童が多い。前題材「まどをひらいて」では、初めてカッターナイフを使用した。新しい用具にも積極的に触れ、楽しんで活動している。しかし、アイデアを上手く形にできないと感じている児童もあり、その理由に用具を上手く使えないということや、時間が足りないということが上がっている。実際に様子を見ていたも、用具を上手く使っていなかったり、「こんな道具があったらこんな風に使えるのにな。」という声が上がったりしたこともある。本題材では、用具や技法の選択肢を増やし、様々な技法を生かした参考例を提示することにより、自分のアイデアを工夫して表現する児童を育成していくたい。

(2) 題材観

本題材では、「たまごから生まれてくるもの」から発想を広げ、たまごの模様や、生まれたものなど、イメージを膨らませて作品をつくる。

「たまごから何が生まれてくるかな？」と聞いかけると、子どもたちからは、「鳥」や「虫」などの生き物だけではなく、「虹」や「自然」など、様々な答えが返ってくる。子どもたちの発想を大切にして、そのイメージを表すために色や形、描き方を工夫させることで、表現する楽しさを味わわせたい。

(3) 指導観

本単元は、学習指導要領の〔共通事項〕「ひみつのたまごから出てくるものや生まれるお話を想像し、絵に表す」を受けて設定したものである。自分がつくったたまごから生まれる世界を表していくこの題材は、工夫することの大切さ、想像をふくらませていく楽しさが味わえる題材である。

本学級の児童18人（男13人、女5人）のうち、17人の児童が図工の学習が好きと答えてい

る。しかし、「思いついたことを思い通りに表すことができるか。」という問いには、5名が「できない」と回答しており、その理由は「用具や材料を上手く使うことができないなど」というものである。

そこで、本題材の学習では、導入の時点で「ひみつのたまご」についての自分のイメージを十分にふくらませ、自分のたまごからは何が生まれ、どんな世界が広がるのかを工夫して表せるようになっていきたい。そのために、クレヨン、水彩絵の具、ローラー、ステンシル、タンポなどの用具の使い方を指導し、自分のイメージに合う用具や技法を選択できるようにする。作品鑑賞会では、自分はどのような世界を想像したのかを発表し合うなどして、互いの作品の面白さや楽しさを味わうような時間を確保していきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
ひみつのたまごから想像したことを絵に表すことを楽しもうとする。	ひみつのたまごから生まれてくるものやお話を想像し、考えることができる。	表したいことに合わせてかき方や身近な材料の使い方を工夫することができます。	自分や友人のかいた絵を見て、想像したことを話し合い、作品の楽しさや面白さを味わうことができる。

5 指導と評価の計画（9時間扱い 本時は第6時）

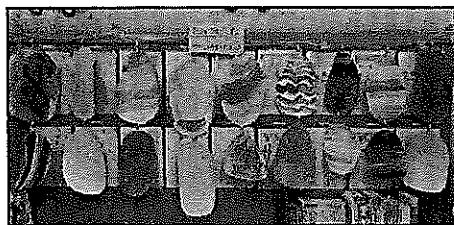
時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 (2時間)	①どのようなひみつのたまごがあつたらおもしろいか想像する。 水彩絵の具でたまごを好きな色に塗る。	・ひみつのたまごから、出てくるものや生まれるお話を想像しながら、絵に表すことに関心をもっている。 【行動、作品】
	②絵の具、ステンシル、タンポ、クレヨンでたまごに模様をつける。	【行動、作品】
第2次 (2時間)	たまごを割って、たまごから生まれてきたものを画用紙にかく。	・ひみつのたまごから生まれてくるものお話を想像し、考えている。 【行動、作品】
第3次 (4時間)	①②たまごがかえった世界を想像し、背景をローラーやスポンジで着色する。 ③④背景にたまごの殻と生まれてきたものをつけ、完成させる。	・かきたいものに合わせて、色の組合せや用具の使い方を工夫している。 【行動、作品】
第4次 (1時間)	作品に題名を付け、鑑賞する。	・でき上がった絵を鑑賞し、互いの作品の面白さやよさを感じ取っている。 【ワークシート】

6 指導の実際

第1次（2時間）

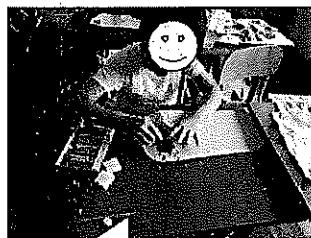
- ① どのようなひみつのたまごがあつたらおもしろいか想像し、たまごを作る。

たまごから何が生まれたら嬉しいか、おもしろいかを想像し、友達と自由に話し合わせる。児童には画用紙をたまごの形に切り、自分の好きな色に塗るように伝えた。次週の図工の時間までに何が生まれるか考えておくように伝え、それまでたまごを教室に掲示した。その間にたまごを見ながら互いに想像を膨らませて話をする様子が見受けられた。

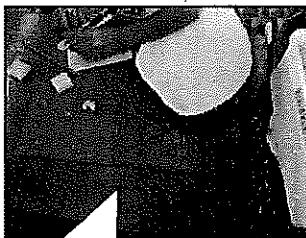


- ② たまごに模様をつける。

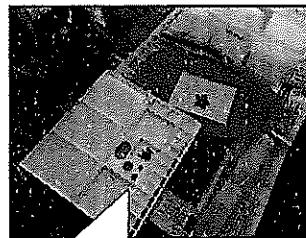
クレヨン、絵の具、ステンシル、タンポの中から好きな技法を選択し、生まれてくるものに合わせてたまごに模様を付けていく。ステンシルは初めて扱う技法なので、やり方を指導し、練習をさせてからたまごに模様を付けさせた。



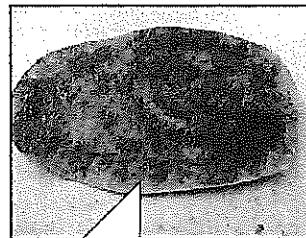
クレヨンで模様を付けます。



既習のカッターナイフでステンシルの型紙を作ります。



ステンシルで花の模様をたくさん付けます。



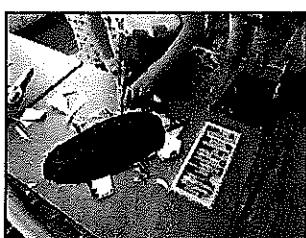
タンポに絵の具を付けてポンポンしたら素敵な模様になりました。

第2次（2時間） たまごを割って、たまごから生まってきたものを画用紙にかく。

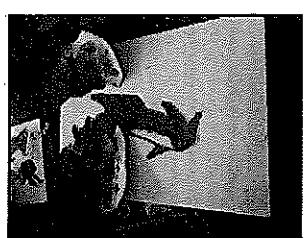
まず、たまごを割る。たまごを割らせるで何かが生まれるわくわく感を味わわせることができた。たまごの割れ方も出てくるものに合わせて自由に割らせた。そして、たまごから生まされたものを画用紙にクレヨンで描いて切る。たまごの大きさや割れ方に合わせて描く様子が見られた。



たまごの割り方もよく考えます。



大きいクワガタが生まれました。

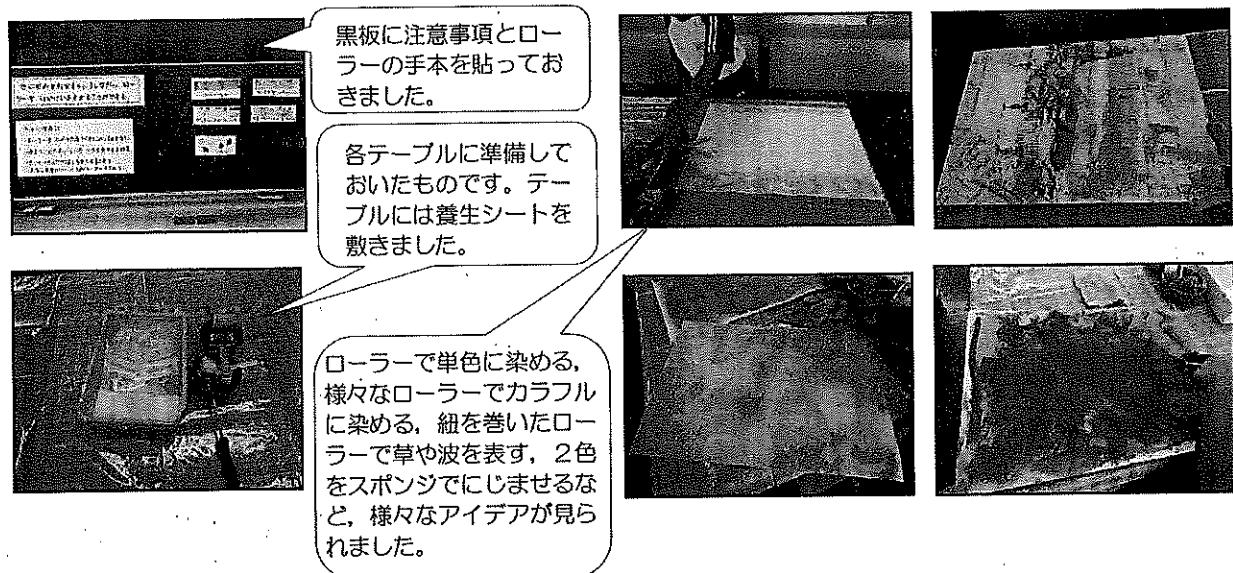


たまごから飛び出してくるように作りました。

第3次（4時間）

① たまごがかえった世界を想像し、背景をローラーで着色する。

ローラーでの着色を行うにあたって、環境を設定した。絵の具の色（赤・ピンク・黄・オレンジ・白・緑・黄緑・水色・青）ごとにコーナーを作り、コーナーにはローラー数種類（緩衝材やひもを巻いたものなど）を用意しておいた。様々な種類のローラーや絵の具を、イメージに合わせて選択させる。絵の具の色ごとにコーナーを作ることで、友人との会話の中からもイメージに近づけられるアイデアを見つけられるようにさせた。また、カッター・はさみコーナーで型紙を作り、ローラーにつけて転がせるようする。子供たちは様々な色の組み合わせやローラーの種類を試し、楽しみながら取り組んでいた。



② 背景にたまごの殻と生まれたものを付け、作品を完成させる。

たまごの殻と生まれてきたものをバランスを見ながらマーメイド紙に貼り付け、クレヨンで周りに絵をかき足して作品を完成させた。



たまごの殻をどこに置くか、どのようにたまごから生まれるかをよく考えて貼りました。

第4次（1時間） 作品に題名を付け、鑑賞する。

鑑賞カードに友達の作品の良いところを記入した。
友達に作品の思いを聞きながら鑑賞ができるよう、
自由に立ち歩きながらの鑑賞会にした。



III 研究の成果と課題

1 成果

質問	集計結果
あなたは図工が好きですか。	好き：17 普通：1 嫌い：0
「ひみつのたまご」の学習は楽しかったですか。	楽しかった：16 普通：2 楽しくなかった：0
作品を作るとき、アイデアがよく思いつきましたか。	思いついた：17 どちらとも言えない：1 思いつかなかった：0
思いついたことを、思い通りに表すことができましたか。	できた：15 どちらとも言えない：2 できなかった：1
なぜできなかったのですか。	アイデアがありすぎてまとまらなかった：3
「ひみつのたまご」の学習で、楽しかったことは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ローラーの種類がたくさんあっていろいろな模様が表せた。 ・ローラーやステンシルが楽しかった。 ・いろんな道具でアイデアを思うように表現できた。

(男子13名 女子5名 計18名)

- ・技法や用具の選択肢を多くすることで児童が表したいことに合わせて自分で選択して使用する様子が見られた。アンケートでも「ローラーの種類がたくさんあっていろいろな模様が表せた」「いろんな道具でアイデアを思うように表現できた」と回答する児童が多数いた。
 - ・実際の動物のたまごのように、たまごが成長し、割れ、中から何かが出てくるという順序を大切にし、たまごを1週間掲示したこと、友達と話をしてアイデアを膨らませることができた。
 - ・鑑賞では、ローラーの使い方やステンシルのアイデアなどに注目をし、「こんな使い方があったんだ。」と友達のアイデアを認め、次の自分の作品に生かしたいという意欲をもつことができた。
- 以上のことから用具の活用や技法選択活動を通して、表したいことを基に表し方を工夫する力を育てることができた。

2 課題

- ・背景を染める際に、色ごとにコーナーを作ったため、色の種類が限られてしまった。混色をしたいという児童もいたので、混色ができる環境も整えておく必要があった。
- ・ステンシルは初めての技法だったため、上手くできない児童が見受けられた。ステンシルの練習時間を確保しておく必要があった。